



VOISTAGEマルチメディアボックス基本ソフトウェア

リリースノート

Ver.9.0.7.0

NTTデータ先端技術(株) 2019/2/22

2019年2月

NTT DATA NTTデータ 先端技術株式会社

Ver.9.0.7.0 2019.2.22

- 次の機能強化を行いました
 - ・DTMF誤検出防止性能を向上し、雑音や人の声の誤検出を軽減した。
 - ・待機状態におけるPRISVCBサービスのCPU使用率を軽減した。
 - 次の不具合を修正しました
 - ・品質が低下している回線でECM機能を使用してFAX受信する場合、再送が動作しない状況に陥り、FAX受信に失敗することがある。
 - ・品質が低下している回線でFAX送信あるいは受信を行うと、ページ間の通信で再送処理が行われず、FAX送信あるいは受信に失敗することがある。
 - ・14桁以上の発信者番号(ナンバーディスプレイ)が通知された場合、番号を取得できないことがある。
(海外から発信された通話では、発信者番号が14桁以上になることがある)
 - ・FAX受信で相手機が圧縮形式にJBIGに加えてMMR/MRのいずれかを指定していた場合、誤解釈により画像変換エラーを引き起こすことがある。
-

Ver.9.0.6.2 2018.12.21

- 次の仕様変更を行いました
 - ・FAX送受信メソッド実行直後、既に通話が切断されていた場合、FAX送受信は失敗し、その結果をSenseメソッドで取得すると、FAX送受信した枚数や、FAXエラー詳細は、一つ前のFAX送受信した結果を表示していたが、FAX送受信に失敗した際のSenseメソッドの結果として、FAX送受信枚数は0(枚)、FAXエラー詳細は3(相手切断)となるようにした。
 - 次の不具合を修正しました
 - ・回線に紐づいたアプリケーション(※)の起動、停止を繰り返すとコアサービスが異常終了することがある。
(※)StagePlayerで起動するスクリプトのアプリケーションやActiveX、S100等のアプリケーション
-

Ver.9.0.6.1 2018.08.31

[Ver.10.0.1.0からのバックポート]

- 次の機能強化を行いました
-

- ・従来のログ保存方式に加え、ログファイル名にタイムスタンプを加えてユニークなものとし、永続的に保存することも可能にした。

(この場合、基本ソフトウェアは古いログを消さなくなるのでユーザーの管理が必要になる)

[指定方法]

VOISTAGE.INIの[Log]セクション(既存)にパラメータ「ROTATION」を以下のように追記する。

(初期設定はパラメータの記載はなく、従来通りのログ出力)

ROTATION=<値>

<値>

NORMAL(従来通りの面数によるローテーション)

TIMESTAMP(記録されたログが指定サイズとなったらファイル名にタイムスタンプが追記される)

(本パラメータの記載がない場合や他の値が指定される場合、従来通りのログ出力を行う)

- ・INS発信専用回線や発信専用業務などの着信しないアプリケーションにて、PC負荷時にコアサービスとマルチメディアボックス間の通信状態不一致に起因する発信失敗を、自動復旧するようにした。

Ver.9.0.6.0

2018.04.20

- 次の機能強化を行いました

- ・USBケーブルをPCから抜去し、再びUSBケーブルを差し直した場合、ControlNoticeイベント「0(マルチメディアボックスが再接続した)」を通知可能にした。本機能は初期設定ファイルに指定することで有効となる。(初期値はパラメータの記載はありません)

[指定方法]

VOISTAGE.INIの[VSMS100]セクション(既存)にパラメータ「MmbConnectEvent」を以下のように追記する。

MmbConnectEvent =<値>

<値>

TRUE(通知する)

FALSE(通知しない)

(本パラメータの記載がない場合や他の値が指定される場合、FALSEと解釈して通知しない)

- ・VS-421MBの特性を従来品VS-411MBの使用感に合わせるため、2点の機能強化を実施した。
 - ・音声認識時におけるエコーキャンセルの効果を高めた
 - ・発信者番号の取得時にノイズ耐性を高めた

● 次の不具合を修正しました

- ・複数ページのFAX送信の際、まれにFAX送信完了が3時間以上遅れる。
(2ページ以降の送信開始時、破損した特定のFAXプロトコル信号を受信し、そのタイミングで相手切断する場合)
- ・特定FAX機からの原稿をMRで受信する場合、画データ変換エラーになることがある。
- ・マルチメディアボックスからSetFaxHeadメソッドによりヘッダーを付けてFAX送信する場合、相手が送信原稿より小さいサイズで受け取るとヘッダーが2重に付加されていた。
- ・VS-421MBのFAX受信において、まれなケースとして相手送信機がスーパーファインとファインを同時に指定する場合、受信に失敗する。
- ・StagePaletteのGUIにおけるBEEP FREQUENCYの設定値が『3800』であるところ、『4000』と誤表記していた。
- ・FAX送信時、送信終了を伝える信号(MCF)に相手FAX機がリトレーニング肯定(RTP)で応答するとFAX送信に失敗する。

Ver.9.0.5.0 2017.07.28

● 下記の機能強化を行いました

- ・FAX受信で生成するTIFFファイルの圧縮形式はMH固定だが、MR、MMRも指定可能とした。(FaxToTiff()など、TIFFファイルを生成するメソッドについては、従来のまま、MH形式のみとする)

[指定方法]

VOISTAGE.INIの[TIFF TAG]セクション(既存)にパラメータ「Compression」を以下のように追記する。

Compression=<値>

<値>

MMR …MMRで圧縮する。

MR …MRで圧縮する。

MH …MHで圧縮する。(初期値)

(本パラメータの記載がない場合、上記以外の値の場合は初期値[MH]として動作する)

● 下記の仕様を変更しました

- ・VS-411MB、VS-421MB(アナログ回線用)で、転送先電話番号に「*」を含む電話番号が設定された場合、「*」以降の番号はダイヤル送信しないが、「*」を含む電話番号で転送するように変更した。
- ・FaxSendメソッドを非同期モードかつFAX継続フラグを有効にした場合、最終ページをFAX送信する際、FAX継続フラグを無効にし、同期モードでFaxSendメソッドを実行する必要があったが、非同期モードのまま実行できるようにした。

・FAX受信の結果をSenseメソッド(CODE=5)で取得する際、FAX受信開始直後に網から切断を受けた場合は、「255(その他エラー)」としていたが、「3(相手切断)」が取得出来るように変更した。

● 次の不具合を修正しました

・CPU高負荷状態等により処理が続行不能となり、コアサービスが終了せざる得ない状況の場合、コアサービスが異常終了することがある。

・StagePaletteに関して以下の表記の誤りを修正した。

・Recogn_NoiseLevel、RECOGN_NoiseLevel_MinのMAX値を「6.0」から「8.0」に修正

・SETUP_DP_DISABLEDを編集不可から編集可に修正

・INSネットサービスの設定画面の着信設定での応答条件の文言を次のように修正

「設定した電話番号(ダイヤルイン番号)だけ応答する」→「設定した電話番号(ダイヤルイン番号/サブアドレス)だけ応答する」

・アプリケーションからの切断要求と網からの切断通知が衝突した場合、次のDIALメソッドの戻り値に、-2(回線の断線状態など)が返り、ダイヤル発信に失敗することがある。

・コアサービスの起動/停止を連続で繰り返すと、コアサービス起動時に網と回線とのリンク状態が不一致となることがある。

Ver.9.0.4.2 2017.06.02

● Windows Server 2016の各エディションに対応しました

・Windows Server 2016 Standard

・Windows Server 2016 Datacenter

・Windows Server 2016 Essentials

● 次の不具合を修正しました

・通信中の回線があるときにNetSrvCmdメソッドを実施するとアプリケーションに制御が戻らないことがある。

・FAX送信時、JPGファイルを指定すると正常にFAX送信が出来ない。

・インストールパスにスペースが含まれるとコアサービス設定ツールの文字が正常に表示されない。

・LinkPlayer後にUtilityTerminateを実行すると、音声合成が出来なくなる。

・ユーザー辞書を使用したTextSpeech(AITalk)を多回線で同時に実行出来ない。

・VoiceText、AITalkでユーザー辞書のアンロードが出来ない。

・特定のTIFFファイルが受信出来ない。

Ver.9.0.4.1 2017.01.25

- 下記の不具合を修正しました
 - ・ FaxReceiveメソッドを実行した際、破損したTIFファイルのデータを受信し、ページ欠落やページ切れが発生しても、FaxReceiveメソッドが失敗(戻り値:-1)とならない。ただし、ページ切れは大きく損なわれる場合を失敗とする。また、S.100 APIの「CTfaxhl_Receve」、スクリプト命令の「FAXREC」についても同様。
- 下記の仕様を変更しました
 - ・ 基本ソフトウェアのインストール時に、インストール先のフォルダパスをキーボード入力や文字の貼り付けし、パスの最後に「VOISTAGE」と指定しても、その下の階層に「VOISTAGE」を自動で作成しないようにした。
- 下記のドキュメントを更新しました
 - ・ 本インストーラー¥Document¥バージョン移行ツールの使用方法¥バージョン移行設定ツールマニュアル.pdf
[2.動作環境]の項目

Ver.9.0.4.0 2016.11.28[対応OS追加]

- Windows 10の各エディションに対応しました

Ver.9.0.4.0 2016.06.10

- 下記の不具合を修正しました
 - ・ VS-421MBIにおいて、相手機からのFAX送信を知らせるCNG信号が認識できない状況でFaxReceiveメソッドを実施する場合、まれにFaxReceiveメソッドが終了しないことがある。

Ver.9.0.3.0 2016.04.28

- 下記の不具合を修正しました
 - ・ TxVoiceLoad実行中にDTMFを受信すると、仕様と違う戻り値”1(DTMF受信)”が返却されることがある。
 - ・ 基本ソフトウェアをインストールしたPCで、マルチメディアボックス未接続時にPCを起動すると、CPU使用率が上がる。
 - ・ バージョン移行ツールでバックアップしたファイルが変更されてしまう。
 - ・ インストール先にVOISTAGEを指定するとコアサービス設定ツールが起動しない。
 - ・ 基本ソフトウェアインストール時に配置した再配布ファイルを、アンインストール時に無条件で削除してしまう。

以下は、VS-421MBのみで発生する不具合

- ・ エコーキャンセラー機能が無効になっている。
- ・ 有音検出が出来ない場合がある。
- ・ FAX受信時に、画像データ中断されると直前のエラー検出に失敗することがある。
- ・ 相手FAX機と信号が衝突すると、FAXセッションの接続に失敗することがある。
- ・ FAX画像データ送信時の先頭フラグ送出時間が従来の時間と異なる。
- ・ FAX送信時、DCN送信開始後にモデム不調でシーケンスタイムアウトする。
- ・ 2400bpsでFAX受信開始時、ネゴシエーション結果が4800bpsとなった場合、エラーと誤判断してしまう。

Ver.9.0.2.1 2015.11.06

- 下記の不具合を修正しました
 - ・ ページ終端が存在しない、または破損しているFAXデータを受信するとFAX受信に失敗する。
 - ・ 基本ソフトウェアインストール時に、新規購入したVS-412MBのファームウェアアップデートが失敗する。

Ver.9.0.2.0 2015.09.18

- 下記の機能強化を行いました
 - ・ 基本ソフトウェアVer.8からVer.9へアップグレードする際、設定ファイルをバックアップし、環境を移行する「バージョン移行ツール」を追加した。
 - ・ 一括設定ツールに「有音検出設定項目」を追加した。
 - ・ プロトコログ出力により詳細な情報を出力するようにした。
- 下記の仕様変更を行いました
 - ・ Dialメソッド実行中に、接続・切断を同時に受けた場合、Dialメソッドの戻り値は-1 だが、切断理由がビジートーン検出だった場合、-3 となるようにした。
- 下記の不具合を修正しました
 - ・ USB抜去状態でLinkPlayerメソッドを実行すると応答に時間がかかる。
 - ・ LinkPlayerメソッドにより回線の奪い取りを繰り返すとLinkPlayerメソッドが失敗し続けることがある。
 - ・ 音声再生でまれに音が途切れながら再生することがある。
 - ・ FAX送受信失敗が多発し、その失敗理由が「その他のエラー」となる。

Ver.9.0.1.0 2015.08.07

- 下記の機能強化を行いました
 - ・ USBデバイスに通信エラーが発生し、コアサービスとマルチメディアボックスの状態が不一致となる場合、マルチメディアボックスの復旧処理を行うようにした。
- 下記の不具合を修正しました
 - ・ 複数枚の特定FAX原稿を受信すると、画像が途切れてしまうことがある。
 - ・ FAX画データを受信中にFAX通信がキャンセルされると、次のFAXが正常に受信できないことがある。
 - ・ 基本ソフトウェアのインストーラーでインストール先にドライブ直下を指定するとパスが不正になる。

Ver.9.0.0.0

2015.06.01

● Ver.9概要

- ・ VOISTAGEマルチメディアボックスVS-421MB(アナログ回線版)に対応しました。
- ・ マルチメディアボックス基本ソフトウェアVer.8.2.2.0と互換を維持しています。
- ・ 対応OSは次の通りです。

Windows 7 / 8.1

Windows Server 2008 R2 / 2012 / 2012 R2

● 機能追加一覧

・ 新音声合成エンジン追加

従来のVoiceTextに加え、AITalk、FineSpeech V2を新たにエンジンとして追加しました。

[注意事項]

VoiceText、AITalk、FineSpeech V2をご利用の際は、マルチメディアボックス音声合成オプションが必要です。

・ 1ページ毎のFAX送信/受信イベント通知追加

FAX送信または受信時に1ページ毎に完了した場合にイベント通知するようにしました。

FAXページ送信通知: FaxSendPageDetectイベント

FAXページ受信通知: FaxReceivePageDetectイベント

・ 電話回線ケーブル抜去検出機能追加

電話回線ケーブルが抜けた状態で発信すると、回線抜去をWindowsイベントログ(アプリケーション)に記録するようにしました。

・ 一括設定ツール追加

回線/筐体毎に設定していた次の3機能について、本ツールにより全ての回線/筐体に対し、一括設定できるようにしました。

- 1.発呼時、ダイヤルトーン(DT)検知設定
- 2.RBT検出時間設定
- 3.みなし接続設定

・ マルチメディアボックスの再接続(もしくは電源OFF/ON)を強化

マルチメディアボックスの再接続時、従来はPCの再起動が必要でしたが、コアサービスの再起動のみ行うことで使用できるようにしました。

・ ログファイル出力の機能強化

- 1.VOISTAGE Core Serviceが起動しているとき、基本ソフトウェアのログファイル保存にCOPYコマンドが適用できるようになりました。
- 2.PSTNのログを出力するようにしました。(VS-421MBのみ)

・ 内部利用データベースの選択

StagePalette、StagePlayerの内部設定データ保存に、従来のMDBに加え、SQLiteを選択できるようにしました。
(初期値:MDB)

・ 筐体構成の維持

基本ソフトウェアインストール時の筐体構成から部分的にマルチメディアボックスを除いても回線番号を振り直さず維持するようにしました。

● **注意事項**

本ソフトウェアに含まれているVOISTAGEオンラインヘルプは、マルチメディアボックス基本ソフトウェアVer.7、Ver.8に含まれている内容と同一です。

最新のVOISTAGEオンラインヘルプにつきましては、下記のURLにアクセスしてください。

https://sites.google.com/a/voistage.com/vs_help/